

金輪坂のきつねのほら(奥越部)

奥越部から、煙屋のみちんたににぬける道に、金輪坂があり、その坂の上いきつねのほらがある。

むかし、そのあたりに、古い大きな松の木があったのを、村の人たちは、なんの気なしにきりたおした。

ところがその晩から、きつねがさわがしくなきたてて、村の人たちは、まんじりともねむれなかった。それで村の人は、あの古い松の木は、きつねの住居だったにちがいない、これは悪いことをしたと思い、あくる日すべに新しい松の木を植え、おわびのしるしにたてたのが、このほらだといわれている。

なお、ほらの横にまじわっている地蔵さんは金輪の地蔵さんといい、歯痛、頭痛をなおしてくれるといっておまいりが絶えない。

